

最近、「スピーチ力」という言葉をよく耳にする。スピーチと聞くと、結婚式のスピーチのような堅苦しいイメージを数年前まで持っていた。

米国に留学していた時、必須科目のパブリックスピーチのクラスは、ネーティブスピーカーの前でつたない英語で話すことが苦痛で、スピーチの魅力を理解する余裕はなかった。そんな私がスピーチクラブを立ち上げることになる



きよみ やの 清美 矢野

でるた

スピーチの魅力

とは、人生分らないものだ。スピーチクラスの先生が「トーストマスターズ」という組織を紹介していた。その

時は、「スピーチでコミュニケーションとリーダーシップを学ぶ組織が米国にはあるのか」としか思っていなかった。帰国後、通訳学校の先生から「トーストマスターズ」という言葉を聞いた時、「え、広島にもあるの!？」と驚き、ど

ころか知りたくなった。大学生から70代の大学教授

まで、さまざまな年代と職業、まさに老若男女の集まりだった。例会は2時間英語で進められ、5〜7分間のスピーチの中に込められたその人の生観は多くのことを教えてくれた。まさに「スピーチ力」だと思う。

スピーチの魅力をもっと学ぶために、2年前に日本語と英語のバイリンガルクラブを設立した。この4月にあった2周年パーティーの時、サブライズでメンバーから花束と温かい言葉をつづったカードをもらった。感謝とともにわが子の成長を喜ぶ母親のような気持ちになった。6月でクラブ会長の任期も終わった。今後のクラブの成長が楽しみだ。

(もみじトーストマスターズクラブ会員II広島市)